

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：高知県大月町・NPO法人大月地域資源活用協議会

## 事業名称1：地域商社の稼働

あらすじ

林業の傍らしいたけを育てている人、キクラゲを栽培する人、畑をする人、半林半Xはいろいろあります。それぞれぼちぼちで生業のひとつにしている人たちの商品の販売を支援する地域商社があると便利です。

ストーリー

R5年度には広葉樹の葉っぱを使ったお茶の商品化を行いました。町内のイベントに出店した際、「畑の傍らでハーブを栽培しお茶を販売しているが、なかなかマーケティングまで手が回らない。」と話すぼちぼち山業の担い手から声が上がりました。生業の延長でつくるもの、でもどうやって販売までしたら良いかわからないものの販売を1か所が担えると、ノウハウがたまり、販路も一緒に開拓できるので効率的です。この事業が稼働するには、地域の通常の雇用形態では働きにくい人も巻き込み、ぼちぼち山業に関わる人たちの作った商品の販売ができる地域商社を目指します。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイルで暮らしている人を増やす	地域商社の運営スタッフは、ぼちぼち山業の運営チーム（1名）のみ。現在、販売を依頼されているものが少ないため一人でも対応できるが、今後幅が広がっていくのであれば事務局の強化をしなければならぬ。また、小売業や経営の初心者のため一定期間は専門知識のあるかたに伴走支援してもらえるとありがたい。
②課題	町内で山林資源が活用されていない、山林資源を活用して生業にしている人が少ない	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	ぼちぼちの生業でできるものの販売を支援することで、収入の一部につながります。生業の延長でつくるもの、でもどうやって販売までしたら良いかわからないものの販売を1か所が担えると、ノウハウがたまり、販路も一緒に開拓できるので効率的です。ぼちぼち山業で生計を営む人たちの生業の一部を応援できます。	
④地域資源	広葉樹など、生業の傍らで取り組むことができるもの	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	ぼちぼち山業の担い手が生産したもの（キクラゲ、しいたけ、お茶、薪など）の販売を手助けする地域商社	
⑥担い手（Who）	町内で山林資源を活用している人が商品づくり、ぼちぼち山業チームが売れる状態をつくり販路を開拓し販売する	
⑦事業で生じる循環	町内の広葉樹など地域でできるものを、町内の人が商品にし、町内町外へ販売し、販売経路やノウハウを町内へ還元する	
⑧事業で生じる成果	町内で山林資源を活用している人が増えている、山業の担い手が増えている	
		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
		・マーケティングや販売に関する専門知識 ・地域産品の出口戦略について検討できる人

**事業名称2：民間の森林管理意向調査→施業までをつなぐ事業**

あらすじ

施業地を探している山師さんと、施業地を提供したい山主さんを繋げる事業です。半永久的に山の資源を活用できるよう山主さん山師さん双方に理解してもらいながら施業地の仲介ができるようにします。

ストーリー

大月町で林業をする人の課題のひとつに「山主が見つからない」という問題はよく話題に上がります。山主側の意見を聞いてみると、「山は持っているけどどうしたら良いかわからない」や「山主の負担なしで道をつけてもらえるならやってもらいたい」と考えている人がいることがわかりました。そこで私たちが仲介役になり、山主さんに、山を放っておくどうなるのか、山を守るためにはどうしたら良いのか、どうやって後世に引き継いだら良いのか、を伝えることで山を管理してほしい（道をつけて欲しい）山主さんを集めようと思います。ひとつの地区で成功したら別の地区でも声をかけ、山の守り方について山主さんに説明を続けていこうと思います。そして、預かった山を施業地を探している人と繋げます。我々は崩れにくい方法で道をつけ半永久的に山林資源が活用できるように、自伐型林業で道をつけ、継続的に山の手入れができることを目指しています。自伐型で林業をしたことがない人にも研修を実施し、自伐型で施業ができる林業従事者を増やす活動も行います。山主さんと山師さんを繋ぎ施業に至ったら、仲介手数料として原木を供給してもらい、地域商社や備長炭生産組合に薪の販売を委託します。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイルで暮らしている人を増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山主と山師の仲介を自治体（滞っているようだが隣の宿毛市が行っているところはあるが、民間が行い事業として経済性が見込めるのか不明である。また、多くのC材を町内で活用できる仕組みづくりが必要。</li> <li>・山に適した施業方法の提案</li> </ul>
②課題	山主は持っている山についてどうしたら良いか困っていて、山師は施業地が見つからないことで困っている。また、山の持ち主が多くだり着かない課題もある。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	山師さんの施業地が見つからない、という課題を解決し、山に手を入れることで山林資源の活用と荒廃林を減らすことで減災に繋げる。	
④地域資源	山林資源	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	地区長など地域に詳しい人に聞き取り調査をし、山主さんの情報をストック。山師さんで施業地を探している人とを仲介する。大規模な開発を行わず、半永久的に山林資源を活用できるようにするために自伐型林業を推奨したい。一方で、町内で自伐型で施業できる人が少ないため、町内の若い小規模林業者を中心に自伐型による施業を広めていく。仲介手数料として現金ないし原木を想定している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形によって間伐が適しているところ、皆伐が適しているところがあるはず。</li> </ul>
⑥担い手（Who）	町内の山師、近隣に住む山師が施業。事務局体制は未定だが、町内の兼業山師や卒業する地域おこし協力隊を想定している。	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	町内の放置人工林・荒廃雑木林を施業する、共販所に出せない材について町内で薪や黒炭の原木として活用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山主と山師の仲介をしている自治体</li> <li>・民間で取り組んでいるところ</li> <li>他の地域の事例を知っている方や、取り組んでいるところの話を伺いたい。</li> <li>・森林プランナーやフォレスターなど山によって施業を提案できる人、による指導が必要。</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	山師の施業地が見つかりやすくなることで、放置人工林の手入れにつながる。森が正しく手入れされることで、海への土砂の流出を防ぐことができる。土砂の流出を減らせることで漁業を守ることにつながる。 また、町内の若い山師にとっては壊れにくい道を一度つけることで成長した原木を出すことができるようになる。	

**事業名称3：町内で木を卸し、活用できる事業**

あらすじ

大月町内で山林資源を活用する方法として、薪や黒炭の生産を検討し少しずつ取組を進めていますが、それだけでは樹種や量が限られます。現状、C材や雑木の卸先が遠いか取引価格が低いという課題があります。もし、町内に卸先があり活用することができたら？町外に支払っていたエネルギーを町内の事業者を支払うことができるようになります。

ストーリー

町内で出た原木をどのように活用するか。方法のひとつとして、大月町で木質チップ工場併設の木質バイオマスガス化発電が可能かどうかについて本事業運営チームで検討しています。山林資源を半永久的に活用できる量で、何トンの原木が調達できて、どのくらいの発電が可能で、事業として成り立つのかを検討してきました。木質バイオマスガス化発電の場合、排熱を利用してお湯を沸かしたり、災害時に自家消費できることから行政への巻き込みも必要です。今後も調査が必要ですが、町内で卸せる場所があることで山師の所得向上に繋げることができます。さらに、今まで運ぶのを諦め切り捨て間伐していたものも回収されてお金に換えられるようになるかもしれません。そうすると切り捨て間伐による災害を防ぐことも期待できます。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイルで暮らしている人を増やす	・行政の巻き込み 行政が木質バイオマスガス化発電の事業体になることは後ろ向きである。木質バイオマスガス化発電だけでなく、町内で材を加工して山師に還元する方法を考える必要がある。
②課題	卸先が遠い、材によっては取引価格が安く経費のほうがかかってしまう。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	町内で山林資源を活用・消費ができるようになる、町外へ支払っていたエネルギーを町内の事業者を支払える	
④地域資源	山林資源	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	C材や広葉樹を町外へ運んでいた山師にとって、町内に卸せる場所があることで経費の削減、所得の向上につながる。 また、町内に木質バイオマスガス化発電所があることで停電が起きた際は自家発電に切り替えることで町民が電気を使えるようになる。	
⑥担い手 (Who)	木質バイオマスガス化発電の事業体として行政を想定	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	町内の山林資源がエネルギーに変わる。町外に支払っていたエネルギーのお金（電気代）が町内の人に支払われるようになる。再生可能エネルギーはFIT制度により買い取られる。	・自治体主導で行っている木質バイオマスガス化発電所との情報交換（鹿児島県錦江町など）
⑧事業で生じる成果	町内で材を卸す場所があることで、原木を遠くまで運ぶ必要がなくなり経費削減、所得の向上につながる。 木質バイオマスガス化発電を大月町で行う場合、排熱を活用して老人ホームのお風呂を沸かすなど公共施設で活用することができる。災害時に停電した際は自家消費できることから、緊急事態への備えをすることも可能である。 ゼロカーボンシティを目指している町にとっては山林資源を活用することは目標を達成する方法の一つになる。	